

令和三年十月十日発行
皇學館論叢第五十四卷第三号
抜刷

研究ノート

「読むこと」を重視した高等学校「古典」の授業実践報告

多田圭介

「読むこと」を重視した高等学校「古典」の授業実践報告

多田圭介

□ 要 旨

高等学校国語科の古典において、現在示されている課題を解決するために、特に「読むこと」に重点をおいた授業実践事例を報告する。具体的には、「①古典を読むことができるようにする」「②古典に親しむことができるようにする」の2つの目標を達成することができる授業設計を検討した。

□ キーワード

高等学校国語 古典B 古典探究 授業実践事例
ICT教育

1、はじめに ～問題提起～

新しい高等学校学習指導要領が平成30年に告示され、いよいよ令和4年度より施行される。現行の「国語総合」や「現代文B」「古典B」などは改編されることとなった。

さて、その中で古典の分野に関しては課題が山積している。直近でもネット掲示板「2ちゃんねる」の創設者で実業家の西村博之氏が自身のTwitterで、

古文・漢文は、センター試験以降、全く使わない人が多数なので、「お金の貯め方」「生活保護、失業保険等の社会保障の取り方」「宗教」「PCスキル」の教育と入れ替えたほうが良い派です^①

とのツイートをされ、「古文漢文オワコン論」として反響を呼んだことは記憶に新しい。

平成17年度に国立教育政策研究所によって行われた調査によると、高等学校において「古文は好きだ」、「漢文は好きだ」に「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と否定的な回答をした生徒は古文が72・6%、漢文が71・2%となっており、古典嫌いの生徒は7割を超えている。また、横浜国立大学教育学部で実施されてきたアンケートによれば、古典が嫌いな理由の第1位は「文法ばかり」(54・2%)であり、第2位は「現代語訳の暗記ばかり」(45・3%)となっている⁽ⁱⁱⁱ⁾。そのため、今回の学習指導要領改定の基となっている中央教育審議会答申における「国語科の課題」では、

高等学校では、教材への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業に偏っている傾向があり、授業改善に取り組む必要がある。(中略)古典に対する学習意欲が低いことなどが課題となっている^(iv)。

と示されている。この通り、「古典に対する苦手意識」とそれを原因とする「学習意欲の低さ」が現在の古典教育における動かし難い課題となっているのである。あくまで筆者の主観ではあるが、「学習指導要領」やその解説を読んでいる限り、「古典B」が「古典探究」に変わったところでこの課題が解決するとは、

「読むこと」を重視した高等学校「古典」の授業実践報告(多田)

到底思えないのである。やはり、上記課題の解決を図るための授業設計が必要不可欠である。

2、本稿の目的

さて、本稿は上記課題を少しでも打ち崩すために実践してきた筆者の授業実践事例報告である。

高等学校における国語科が身につけさせるべき力である「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のうち、特に古典分野において期待されているのは「読むこと」である。これは新しく設定される「古典探究」においても変わりはない^(v)。筆者もこのことに関して異論はない。「読める」ことで「古典に親しむ」ことができるようになり、「古典に親しむ」ことで、古典に対する苦手意識や学習意欲の低下といった課題も解決されると考える。つまり、「読むこと」ができていないことがそもそも課題なのである。以上の観点から、

- ① 古典を読むことができるようにする
- ② 古典に親しむことができるようにする

というのが本稿で設計する授業の目標である。では、①および②の目標達成のために生徒に身につけさせるべき力は何であろうか。そのことについて筆者は「素早く文の大意をつかむ力」

だと考えている。そのためには、富井健二氏が指摘する「文法力」「単語力」「読解力」「古典常識力」という具体的な四つの力を身につけさせることが重要だと考えている。本稿で報告する授業はその中でも「読解力」と「古典常識力」を養うことを目標とする。

3、授業実践

(1) 対象生徒

今回授業を実践したのは、令和2年度の高等学校第2学年普通科の2コース3学級である。さらに詳しく言うと、難関国立大学や難関私立大学を目指すコース31名（Ⅰ組）と、文武両道を掲げ国立大学や私立大学を目指すコース61名の計92名（Ⅱ組Ⅱ理系コース22名、Ⅲ組Ⅱ文系コース39名）の生徒が対象である。私立高等学校の多くがそうだと思うが、生徒間での学力の差には大きな幅があるように感じている。

(2) 使用教材・環境

筆者の勤務校では第一学習社「古典B」の教科書(註)を採択している。そこで活用しているのが、教科書紙面のデータと指導者に用意されている教科書準拠の教材およびそのデータである

（図1）。特にこの教材は活用し易く「語句・文法（漢文なら句法）」「要点の整理」「内容の理解」から構成されており、該当単元の学ぶべき箇所が簡潔に抑えられている。筆者はこの教材をプリントにして配布している。

また、勤務校では全教室に電子黒板が設置されている。筆者は上記の教材データと教科書のデータをそれぞれ電子黒板に投影し活用している。このことによって、教員が説明している箇所を視覚的に分かりやすくすることを心掛けている。

(3) 単元設計

それでは実際に単元を1例あげて実践した授業を報告したい。ここに報告するのは、古文分野「大鏡」「道長の豪胆」である。授業の流れをまとめると次の通りである。なお、1時限の授業時間は50分である。また、項目の冒頭に付してあるアルファベットは、AⅡ教員の講義型授業時間、BⅡ生徒単独の活動時間、CⅡ生徒複数の活動時間をそれぞれ意味し、その次の数字は上記AⅡBの単元における回数である。

【第1時限】においては、本単元の導入部であるため、まずその作品の歴史的位置付けについて解説をしている。当然、作者、成立年代とその時代背景、ジャンル、関連事項等である。

「音読」は毎時間取り入れている。ペアを組ませ、1人が音読している間、もう1人は音読者の漢字の読みや文節・単語の切れ目等の確認をする。終われば交代する、といった流れである。【第2時限】以降では時間を設定し、正確に素早く読むことを促している。

「あらすじの確認」は次のように行っている。じゃんけん等で1分であらすじを説明する役と、その後にあらすじの説明を聞いて30秒で補足説明をする役を決めて行っている。

「話し合い」では、解答の確認だけでなく、その解答の根拠や純粋な疑問点等を話し合わせる時間としている。また、解説の際には、解答者を指名しながら進めているため、解答がわからなかったもしくは解答に自信がない箇所を指名される不安を取り除く意味合いも持ち併せている。

全体として留意していることは、Aの時間が授業時間の半分以上を超えないことである。全3時限(150分)で見ても、Aの教員が講義をする時間が(全5回＝60分) BとCの生徒が活動ををする時間(計11回＝90分)の4割程度に抑えるようにしている。一方で教員による講義を蔑ろにするつもりは毛頭ない。A1や

A4では教材や本文の解説を行い、古典の読み方だけでなく重要なポイントを視覚的にも訴えかけ、興味・関心を引き出すことができようような説明を心掛けている。また、A3やA5では、実際に問題を解く際のポイントや解法を分かりやすく講義することを心掛けている。

以上、1例を挙げて授業の実践を報告した。教科書の各単元に関しては、若干の時間配分に差異はあるもののおおよそ上記のように授業を設計して実施している。これは古文分野、漢文分野共通である。

(4) 結果

筆者の授業に関して、もちろん多岐に渡る視点からの検討方法が考えられるが、本稿ではひとまず令和2年度の各クラスにおける最後の授業の際に実施した「授業に関するアンケート」【図2】を分析することで検証してみたい。

このアンケートは、「古典に親しむことができるようにする」ことに関する質問1、「古典を読むことができるようにする」ことに関する質問2～7、「授業運営」に関する質問8～14で構成されている。なお、評価方法として1～4の段階で評価してもらい、それぞれ、4＝とてもそう思う、3＝そう思う、2＝そう思わない、1＝とてもそう思わない、である。

第2学年古典B 授業に関するアンケート

下記の質問項目に関して、4段階で評価してください。
 (4=とても思う 3=そう思う 2=そう思わない 1=とても思わない)
 いただいたご意見は次年度の授業の改善に向けて、活用したいと思います。

- | | | | | | | | |
|--------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 1、古典の授業に興味・関心が持てましたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 2、古文の学力は上がりましたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 3、漢文の学力は上がりましたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 4、読解力は身につきましたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 5、文法力は身につきましたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 6、単語力は身につきましたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 7、古典常識力は身につきましたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 8、定期考査の難易度は適切でしたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 9、宿題の量は適切でしたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 10、小テストの回数は適切でしたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 11、教材(教科書・プリント等)は適切でしたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 12、教員の説明(解説)は分かり易かったですか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 13、授業を進めるスピードは適切でしたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |
| 14、授業中に行う話し合いは上手にできましたか。 | 4 | ・ | 3 | ・ | 2 | ・ | 1 |

15、1年間の授業で自分が身についた(と思う)知識(力)を記入してください。

16、1年間の授業の良かった点を記入してください。

17、1年間の授業の改善点(次年度の要望等)を記入してください。

【図2】 授業に関するアンケート

【表3】 授業アンケート結果(質問1～質問14の平均値)

	I組	II組	III組
1、古典の授業に興味・関心が持てましたか。	3.3	3.2	3.6
2、古文の学力は上がりましたか。	2.9	2.6	3.3
3、漢文の学力は上がりましたか。	2.8	2.8	3.1
4、読解力は身につきましたか。	2.8	2.9	3.2
5、文法力は身につきましたか。	3.0	2.5	2.9
6、単語力は身につきましたか。	2.4	2.7	2.9
7、古典常識力は身につきましたか。	3.0	3.0	3.3
8、定期考査の難易度は適切でしたか。	3.3	3.1	3.4
9、宿題の量は適切でしたか。	3.6	3.6	3.9
10、小テストの回数は適切でしたか。	3.5	3.5	3.8
11、教材(教科書・プリント等)は適切でしたか。	3.6	3.7	3.9
12、教員の説明は分かり易かったですか。	3.8	3.7	3.9
13、授業を進めるスピードは適切でしたか。	3.7	3.7	3.9
14、授業中に行う話し合いは上手にできましたか。	3.3	3.5	3.4

また、質問15以降は記述式の回答とし、質問15「1年間の授業で身についたと思う力（知識）を記入してください」、質問16「1年間の授業の良かった点を記入してください」、質問17「1年間の授業の改善点（次年度の要望等）を記入してください」とした。

まず、4段階評価の平均を集計した結果を一覧にすると【表3】の通りである。

質問1の平均値を見ると、I組が3.3、II組が3.2、III組が3.6である。主題であった「古典に親しむことができるようにする」という目標は概ね達成できたといえよう。続いて平均値が3.5以上の項目は質問9「授業運営」に集中しており、組によって若干差異はあれども、いずれも高評価を得ることができた。その中でも質問14の平均値が少し低いので、話し合いの方法、促し方が今後の課題と感じている。

一方で、肝心の「古典を読むことができるようにすること」に関する質問2～7については、上記項目と比べると平均値が低めとなった。本授業でねらいとしている「読解力」や「古典常識力」に関してもあまり数値が高くなかったことは大きな反省点である。

また、記述形式の質問に関しては、まず質問15の回答の主な内容を分類したものが表4である。

【表4】質問15の回答結果
(重複回答あり)

回答内容	回答数	
読解力(音読を含む)	50	
単語力	4	
文法力	24	
古典常識力	10	
その他	漢文	12
	古文	6
	問題の解き方	5

【表5】質問16の回答結果
(重複回答あり)

回答内容	回答数
わかりやすい	32
楽しい・面白い	26
その他	21
教材の活用	10
授業を進める速度	5
話し合いができた	4

最も回答数が多かったのは、「文章の意味が読み取れるようになった」や「話の内容を理解できるようにした」など「読解力」に分類されるものであった。この点においては「古典を読むことができるようにする」という目標は生徒と共有できたようである。

続いて回答数が多かったのは「文法力」である。筆者としては、「文法力」が「古典常識力」の回答数を上回ったことは意外であった。これは、本稿で紹介したB1やA3だけでなく、単元と単元の間には文法事項の解説を行っていたからだと考えられる。その内容については、機会があれば稿を改めて論じたい。

また、「その他」の「漢文」や「古文」は、「漢文の読解力が身についた」や「古文の読解力」など分野を明記して回答してきた数である。

続いて、質問16の回答の内容を大きく分類すると【表5】の通りである。最も回答数が多かったのは「説明がわかりやすかった」等の「わかりやすい」といった内容である。その次点が「楽しい・面白い」であるから、この結果からも最初の目標の①・②ともに概ね達成できたと言えるのではないだろうか。なお、質問17の改善点については、令和2年度に取り組むことができなかった「授業内に単語テストを取り入れて欲しい」や「模試の問題の解説をして欲しい」との要望が多かった。次年度以降の改善点とする。

4、おわりに

以上、本稿では筆者が行ってきた授業実践事例を報告してきた。その結果、生徒の実感としては目標の「① 古典を読むことができるようにする」「② 古典に親しむことができるようにする」に関して概ね達成できたのではないだろうか。一方で、授業中における話し合いの質を高めることや授業における振り返りの方法等課題は山積しており、今後さらに研鑽を重ねてい

「読むこと」を重視した高等学校「古典」の授業実践報告（多田

きたい。

冒頭でも述べた通り、令和4年度より国語科の各科目はその名称も含めて大きく変更される。未だ明らかでない部分は多いが、「古典に親しむ」ことは引き続きの課題となるであろう。本稿がその課題を解決するための一つの方法になることができれば幸いである。

注

- (i) 令和3年2月19日のツイート。(<https://twitter.com/hrox246/status/1362451268430618627>)
- (ii) 国立教育政策研究所ホームページ。(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h17_h/h17_h/05001011540004000.pdf)
- (iii) 日本学術会議 言語・文学委員会 古典文化と言語分科会『提言 高校国語教育の改善に向けて』(令和2年)所収資料。
(<http://www.sci.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t290-7.pdf>)
- (iv) 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解 説 国語編』(平成30年)
- (v) 注 iv 参照。
- (vi) 富井健二『富井の古文読解をはじめからていねいに』(ナガセ、平成16年)

- (vii) 偏差値は59と51とされている。(みんなの高校情報三重
(<https://www.minkou.jp/hischool/school/deviation/1096/>))
- (viii) 『高等学校 改訂版 古典B 古文編』183・第一・古B 350)、
『高等学校 改訂版 古典B 漢文編』(183・第一・古B 351)
- (ただ けいすけ・津田学園高等学校 教諭)